

カンボジアの教育SWAp

- ◆背景
- ◆SWApの発展過程
- ◆ESP, ESSP
- ◆援助協調のメカニズム
- ◆ドナー会合
- ◆仕事上の難しさ

背景

- ◆フランスの保護国 (1863~1953)
フランスの教育システムの導入
- ◆ポル・ポト時代 (1975~1979)
教育システムの破壊
- ◆ヘン・サムリン政権 (1979~1989)
ベトナムの復興支援

◆ 1990年代 復興の時代

カンボジア国連暫定統治機構(UNTAC)による総選挙(1993年) = 二大政党

NGOや援助団体による本格的な支援が始まるが、ドナードリブンによる非効率的支援になりがち

- ・ 貧困層や女子、社会的弱者集団の就学率の低さ
- ・ 高い留年率と退学率など教育の内部効率の悪さ
- ・ 教材が行き渡らなかったり、優秀な教員を配置できないことによる教育の質の低さ
- ・ 教育セクターの財源不足による貧困層へのしわ寄せ

SWApの発展過程

◆ 第1段階

1999年9月 ADBの支援開始と同時に、教育セクターにおけるSWApに関する話し合いが始まる

2000年3月 政府とドナー、NGOの間で覚書(Statement of Intent)が結ばれるが、署名を控えるドナーも多かった。

2000年後半 教育省は、政府、ドナー、NGOに対してSWApに関するセミナーを開催

2001年2月 教育パートナーシップに関して、署名を省略する形で公的な合意。ESWGの活性化を伴う。

◆ 第2段階

2001年3～4月 ESPとESSPの策定

2001年6月 ESPとESSPの第1回合同レビュー

◆ 第3段階

2002年9月 第2回ESSP合同レビュー,ドナーレポートなども
伴う

2003年5月 第3回ESSP合同レビュー,ドナーレポート、セクター
パフォーマンスレポート,各部署のアチーブメントレポ
ートを伴う。教育財政運営委員会が開かれる。

ESP・ESSP

◆ Education Strategic Plan

教育政策と戦略 5年ごとに見直し

◆ Education Sector Support Program

全体的な課題やサブセクターごとの実施計画 毎年合同
評価を基に見直し

援助協調のメカニズム

◆ドナー会合(月1回)

ESWG: Education Sector Working Group

◆教育省・ドナー・NGO会合(2ヶ月に1回)

◆NGO会合(月1回)

NEP: NGO Education Partnership

◆ドナーコーディネーター

ドナー会合(ESWG)

- ・プログラムアプローチの促進
- ・教育政策、戦略、実施に関して話し合う
- ・今後の支援計画、現在の支援の状況など報告

- ・ドナーの覇権争い
- ・問題点の告発
- ・時として強引な会議運営
- ・ニーズに対しコミットしにくい

仕事上の難しさ

- ◆ 3つの立場の使い分け
カンボジア政府、日本政府、ドナーの立場
- ◆ カンボジア政党間のおつれき(人民党、フンシンペック党)
+ 派閥による分断
中立が難しく、味方でなければ敵
- ◆ 情報収集
改革のスピードが非常に速く、広範囲 (行財政改革も伴う)
集約している場所は皆無
ネガティブな情報は出てこない

Lessons

- ◆ 一般的には成功とみられている
 - ・パートナーシップ、オーナーシップ等
 - ・就学率の向上
- ◆ 理由
 - ・柔軟なアプローチ
 - ・幅広い理解のため努力
 - ・公平な公正な発展過程